

## 第十一講 アナール批判とポストモダン

### アナール学派第四世代の批判

ロジェ・シャルティエなどによる第三世代批判

数量化に対する批判

人間が抽象化され個人が描かれない

心性から表象へ

政治史の再評価（社会史を通して）

### ポスト・コロニアリズム／モダニズム

旧植民地における民主化の失敗、独立後の貧困の拡大、先進国への経済的従属の強化、旧宗主国の干渉

西欧的価値基準の否定、伝統文化の再評価、西欧化以外の成長戦略の模索

E. サイド（1935 - 2003 年）

パレスティナ系アメリカ人

『オリエンタリズム』1978 年（原著）

西欧による植民地支配の言説

西欧のオリエント専門家（知識・過去への崇敬・現在への低評価、植民地支配の肯定）

バルフォアとザグルール・パシヤ

『文化と帝国主義』1993 年（原著）

ユニラテラリズム（一方主義）への危機感

湾岸戦争（1991 年）

アメリカの正義への批判

ジャーナリズム資本による世論形成

一方的断罪と自己の正義主張

↓

### 文化帝国主義論

先進文化の受容

受容は必然かつ一方向なのか、それとも表面的なのか

受容者側の主体性

古代史におけるヘレニズム（ギリシア文化の東漸）やローマ化概念

中南米におけるキリスト教化

ベースボールから野球へ

ベースボールの主体的導入と日本化

英語は必要か、ネイティブのように話せないといけないのか